

2020年度 ハマボノプロジェクト

支援先団体名	区	支援メニュー	ページ
ふれあいっこ三ツ沢	神奈川	ウェブサイト (ママボノ)	2
輝楽理庵	神奈川	活動運営マニュアル (ママボノ)	5
ばあばの家 あさだ	西	活動運営マニュアル	8
移動支援バス『おでかけ3』実行委員会	西	ウェブサイト (1DAYチャレンジ)	11
リトルファームHOMMOKUもくり 運営委員会	中	印刷物 (1DAYチャレンジ)	14
一般社団法人 ホットカフェ小机	港北	ウェブサイト	21
NPO法人笑顔	緑	活動運営マニュアル	17
いこいの家 夢みん	戸塚	印刷物 (1DAYチャレンジ)	25
NPO法人せや	瀬谷	印刷物	28
見守り配食グループ わっか	瀬谷	活動運営マニュアル	31

プロジェクト紹介

ふれあいっこ三ツ沢



神奈川県

ふれあいっこ三ツ沢

プロジェクトの種類 ウェブサイト

プログラム

ママボノ

進捗率 進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

平成28年に設立した神奈川県の子ども食堂です。子どもの居場所づくりを目的に、子ども食堂での食事提供、学習支援、遊びの機会を提供しています。ボランティアには地域の高齢者や大学生などが参加し、子どもの支援を通じた、多世代の交流の場にもなっています。

現在、コロナの影響で子ども食堂が開けない状況で、食料の頒布会などを行いながら支援を継続しています。長引くコロナ禍でも、引き続き子どもたちの居場所づくりを行う為に、今後は学習支援に力を注いでいこうとしていますが、ボランティアや寄付が不足している状況です。

また、学習支援の取り組み強化にあたり、もっと多くの人に活動を知ってもらい、利用者を増やしたいと考えています。しかし、現在のホームページでは、ボランティア募集を掲載するページがなく、また、団体活動のイメージも伝わりにくいため、より多くの方が団体活動に興味を持つようなホームページが必要です。

そこで、プロボノプロジェクトで、ボランティア、寄付者、利用者を集めることを目的にホームページのリニューアルを行います。活動内容や魅力を整理するとともに、潜在的な寄付者やボランティア、利用者がホームページを見た際に、次のアクションへ繋がるような記載内容を考えます。

進捗状況

リーダー： 浦さん 金城さん

メンバー： 木村さん 小泉さん 本間さん 大塚さん 金谷さん

2020.10.08



ヨコハマプロボノのママボノ2チームが、オリエンテーションを実施しました。すでに事前調査を始めるなど、積極的にスタートしました。

2020.10.20



支援先との初顔合わせとなるキックオフミーティングを実施しました。チームが主導となって今回のプロジェクトの目的や目標の認識合わせや、今後の進め方などを確認しました。

2020.10.26

ボランティアの方へのヒアリングを実施しました。

2020.10.27

地域の町会員、寄付者、利用者などへのヒアリングを実施しました。

2020.10.28



支援先団体を訪問し、支援先の方との対面ミーティングを実施しました。

2020.10.29

ボランティアの方へのヒアリングを実施しました。

2020.10.31

ハロウィンイベントを見学しました。

2020.11.19



中間提案ミーティングを実施しました。これまで実施してきた丁寧なヒアリングについての報告、それをベースにしたウェブサイトのコンセプトやターゲットのご提案、そして、すでに着手している団体の雰囲気を伝える温かみのあるウェブページを団体の皆さんにお披露目しました。これから成果提案までに、詳細の確認をしながら、ウェブサイトを整えていきます。

2020.12.03



成果提案ミーティングを実施し、出来上がったウェブサイトと、今後団体の方々がウェブサイト運営するためのマニュアルのお披露目をしました。また、作成したマニュアルを使いながら、初めてJimdoを利用される団体の方への実践レクチャーも実施しました。団体のコンセプトや実際の活動の楽しい様子が伝わってくる、とても温かみのあるウェブサイトになりました！

2020.12.08



横浜のママボノ2チームの成果報告会を、支援先の方、支援先団体推薦者の方などの同席もいただき、実施しました。2チームがそれぞれ、プロジェクトの報告、成果物のご紹介、メンバーからの感想などを発表し合いました。

2020.12.17

制作したウェブサイトを納品した後、更新用マニュアルを最終修正、完成版のマニュアルを納品しました。

プロジェクト成果



団体の皆さんや活動の、アットホームな雰囲気が伝わるような、情報満載で魅力的なウェブサイト

このプロジェクトでは、すでに団体がお持ちのウェブサイトを、ママボノチームがリニューアルしました。ヒアリングや活動現場見学を通して見えてきた団体の魅力を伝えられるよう、まずは現状のウェブサイトの改善点を整理、コンセプトや発信すべき情報をご提案。そして、これを見た人みんながふれあっこ三ツ沢に参加をしたくなるようなウェブサイトを目指しました。

デザインは暖かいオレンジをベースに作成、構成は、「知りたい」「利用したい」「支援したい」の3つのページを作る点を工夫しました。

「知りたい」は、団体紹介に加え、利用者の声や、スタッフの皆さんなどの写真も掲載し、団体への親しみを感じてもらえるページに。「利用したい」では、具体的な活動を丁寧に紹介し、参加への関心をもってもらいます。さらに「支援したい」ではボランティアや寄付で団体を支える側にも興味を持ってもらうという構成です。

支援先の方からは、ホームページをこれからしっかり育てていきますという嬉しい言葉をいただきました。

(2021年3月8日時点の情報です)

[完成したウェブサイトはこちら（外部サイトにリンク）](#)

プロジェクト成果の“その後”



ホームページを見て、新たなボランティアの方が入っていただきました。プログラミングの講師をされていた方が、地域で活動しているふれあっこ三ツ沢を知り、お手伝いしたいとのことでした。ホームページの更新、団体の活動の1つであるプログラミング教室、学習支援に関わっていただいています。

その他、イベントのお手伝いや、子ども食堂の見学など、様々なお問合せを頂いています。

さらにホームページの認知度を上げるため、ふれあっこ三ツ沢のご紹介チラシにQRコードを載せるようにしました。イベント等の申し込みに関しても直接ホームページから申し込んでいただけるので、対応が楽になりました。そのチラシも、プログラミングの先生が作ってくださっています。

[2022/2/15 ふれあっこ三ツ沢代表小川様へのヒアリングより]

プロジェクト紹介

輝楽理庵



神奈川県

輝楽理庵

プロジェクトの種類 活動運営マニュアル

プログラム

ママボノ

進捗率 進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

もの作りなどの高齢者向けイベントの開催や、配食サロンなどを運営しています。活動スタートのきっかけは東日本大震災。翌日からのお祭りの用意をしていたところに震災が起こりイベントは中止、イベント用に準備していた炊き出しを、避難をしている人に提供しようと用意をしました。しかし、避難所での規定などで対応がスムーズにいかず、作った料理をすぐに渡せない状況がありました。この体験を通し、地域の力を活かすための仕組みづくりが必要だと感じていた中、町会長さんの計らいで、神之木町町内会館を借りて活動ができることになりました。以来、体操やもの作りなどのイベント、食事などを通して、地域のご高齢の方が元気になれるように、地域活動を展開しています。

現在団体は、コロナ禍もあり、例えば今後オンライン診療が広がったときに、高齢者も抵抗なくオンラインコミュニケーションツールを活用できるようにするなど、高齢者にオンライン活用を広めることが必要だと感じています。そのため、高齢者のオンラインコミュニケーションツールの活用に向け、端末などを準備して、高齢者向けのオンライン体験講座を開きたいと考えており、誰でも運営ができるマニュアルがほしいと思っています。

そこでプロボノプロジェクトでは、高齢者がオンラインでもつながれることを体験し、オンラインツールを使えるようにするために、使用する端末などについての整理された情報や、オンライン使用手順がわかるマニュアルを作成し、運営スタッフ以外の人でもオンライン体験会を担当できるようになることを目指します。

進捗状況

リーダー： 笠木さん 辻野さん

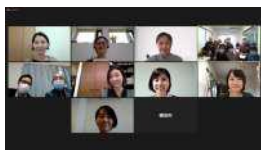
メンバー： 鍵山さん 田中さん 大場さん 石川さん

2020.10.08



ヨコハマプロボノのママボノ2チームが、オリエンテーションを実施しました。支援内容の確認や今後の進め方の確認、キックオフミーティングに向けての準備を開始しました。これから2か月が楽しみです！

2020.10.20



キックオフミーティングを実施しました。チームが事前に準備をしたプレゼン資料に沿って、支援先の現状やニーズに対する理解の認識合わせや、今後のプロジェクトの進め方などを支援先の皆さんと確認しました。

2020.10.22

オンライン体験会で使用する端末とSIM選びについて、支援先の方と打ち合わせをしました。ご希望をヒアリングしながら、端末の使いやすさや料金システムの違いなど、事前に調べた情報を参考にアドバイスをしました。また、今回作成するマニュアルのスコープも絞り込みました。

2020.10.27

現場活動の見学と支援先の方々のヒアリングを行い、現在の団体のみなさんのスマホ・ケータイの利用状況などをまとめました。

2020.11.04

チームミーティングを行いました。

2020.11.08

支援先が購入した端末へオンライン体験会で使用するLINEアプリのインストール等、設定のサポートを行いました。

2020.11.09

支援先を訪問し、引き続きスタッフ向けと貸出用の端末の設定のサポートと、体験会マニュアルのプロトタイプを提示し、成果物のイメージの擦り合わせを行いました。

2020.11.17



中間提案ミーティングを実施し、作成したオンライン講習会マニュアルのプロトタイプを、支援先にご提案しました。
マニュアルの内容はご要望に沿っていることが確認でき、今後はこのプロトタイプをもとにマニュアルを最終化する過程に入ります。
これまでの端末やSIMカードの購入・LINEアプリのインストールのサポートを経て、今は団体の皆さんがLINEグループでのメッセージのやり取りを実践されている様子も知ることができました。

2020.11.20

提案に対する回答と承認を実施しました。

2020.11.24

支援先と成果物及び、成果提案後すぐに行われる成果物（マニュアル）を利用した団体が実施する高齢者向けオンライン講習会についてなど、話し合いました。

2020.11.26



成果提案ミーティングを実施し、LINEの使い方やSIMカードの設定方法、Q&A集などを含むオンライン講習会運営マニュアルをご提案しました。高齢者の方にもわかりやすいように、一つ一つのステップを丁寧に説明し、写真も多用するなど工夫しました。
12月1日には、いよいよこの資料を利用して、団体がオンライン講習会を行います。チームも参加し、実際の使用感を確認予定です。

成果物の最終納品は、講習会後のフィードバックを頂いてから行います。

2020.12.07

提案に対する回答と承認を実施しました。これでプロジェクトは終了です。早速このマニュアルを使って、遠保にいるご家族とお話できた方がいたり、他の団体へもマニュアルを広める動きが出ており、とても実用的なマニュアルとなりました。

2か月間本当にお疲れ様でした！

2020.12.08



横浜のママボノ2チームの成果報告会を、支援先の方、支援先団体推薦者の方などの同席もいただき、実施しました。2チームがそれぞれ、プロジェクトの報告、成果物のご紹介、メンバーからの感想などを発表しました。

プロジェクト成果



言葉の表現や文字・写真の大きさなど、高齢者へのわかりやすさに配慮したマニュアルを作成

ママボノチームは、代表の吉岡さんと相談をしながら、SIMカードやタブレット端末の情報を調べ、今回の利用に適した端末とプランを提案。

マニュアルは、ヒアリングで把握した高齢者の理解度にあわせて、1ステップごとにスライドを作成。慣れない方にもわかりやすい「基本編」「応用編」「質問集」の3部作のマニュアルとなりました。

プロジェクトの最後には、吉岡さんをはじめ、団体スタッフ内でLINE体験会を実施。スマホに慣れない方が多いなか、それでも新しいことに挑戦される姿、皆で楽しく学ぼうとされる姿がとても印象的でした。

吉岡さんからは、「幼子を育てながら社会貢献に取り組まれているママボノさんたちに、祖母世代のスタッフは刺激を受けて、活動に積極的になりました。成果物も感謝しておりますが、ゴールまでのプロセスでも無形の大きなものをいただきました。」とのご感想と、コロナ禍で直接会うことができないご家族とLINEで顔を見ながら話せることができた方がいらっちゃった、など、早速嬉しいご報告を頂いています。

プロジェクト成果の“その後”



プロジェクト直後、成果物のマニュアルを使用してスタッフの勉強会を4回実施し、その後、スタッフ対象にオンライン会議を3回開催しました。コロナ禍での感染予防のため介護予防活動はLINEで実施し、それは現在も継続しています。

スタッフからは、「LINEで友達が増えました」「講習会参加後にスマホを購入した。LINE研修会は友人に紹介しています」「高齢なので覚えられるか不安だったけれど、仲間の刺激とマニュアルのお蔭で操作できるようになり、写真を送ったり、オンラインで通話したりしています」「かかりつけ医のオンライン予約や相談ができました」など、多くの感謝の声が寄せられています。

コロナ禍が終息に向かい安全な状況になりましたら、まずは2か所で成果物のマニュアルを使用して学習会を開催する予定です。

[2021/10/10 輝楽理庵 吉岡様へのメールヒアリングより]

プロジェクト紹介

ばあばの家 あさだ



西区

ばあばの家 あさだ

プロジェクトの種類 活動運営マニュアル（ボランティア案内資料）

プログラム

ハマボノ

進捗率

進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

「ばあばの家あさだ」は、バス通りから住宅街の坂道を登る途中にある一軒家。10年前に、空き家になる家を地域で活用してほしいと、空き家の所有者から声をかけて頂いたことがスタートのきっかけでした。以来、高齢者向けの居場所、親子のつどいの広場、介護保険の要支援者対象の居場所、その他、茶話会、手仕事の集まりなど、様々な活動を展開しています。

現在団体が抱えている課題は、参加者が固定化してきており、新しい参加者があまり増えていないということ、ボランティア不足です。これまでも様々な活動をしてきましたが、もっと地元の人に気軽に来てもらえるようにイベントをさらに工夫したいと考えており、そうした運営に携わってくれるボランティアメンバーを募集していますが、希望者を思うように集められていません。

そこで今回のプロボノプロジェクトでは、「ばあばの家あさだ」のボランティアスタッフを募集するために、ボランティア募集説明会などで使用できるボランティア案内資料をパワーポイントで作成します。

またそれにあたり、「ばあばの家あさだ」を理解していただくための情報を整え、ボランティアとして「ばあばの家あさだ」で活躍していただける様々な役割について整理をし、ボランティアスタッフを充実させるための方法や募集方法を検討します。



進捗状況

プロジェクトマネージャー： 梶谷さん

マーケッター： 岩井さん 加藤さん 倉本さん 田中さん 安原さん

2020.10.24



ハマボノ2020、ハマボノ1DAYチャレンジ2020の、オリエーションを8チームで実施しました。自己紹介から始まり、地域包括ケアについての研修、プロジェクトのスケジュールや分担の確認を行い、2週間後のキックオフミーティングに向けて、プロジェクト準備がスタートしました。

2020.11.07



ハマボノ全5チームが集合し、キックオフミーティングを実施、プロボノチームと支援先団体の皆さまとの顔合わせをし、プロジェクトがいよいよ本格的にスタートしました。

2020.11.12

現地訪問（11/23）に向けて、チームでオンラインMTGを実施しました。

2020.11.23



「ばあばの家あさだ」をチーム全員で訪問。成果物の具体的なイメージについて、あらかじめ団体と話し合い、「ボランティア募集を目的としたチラシと、詳細な内容を説明する資料」を作成する方向で進めることにしました。また、募集の仕方やイベント企画等についても、現状を丁寧に伺いながら様々な視点で意見交換を行いました。

2020.12.11



ばあばの家にて、施設長同席のもと、社会福祉協議会の方やケアプラザ担当者の方から、どのようなかたちで「ばあばの家 あさだ」のボランティア募集をサポートされているのかヒアリングを行いました。

2020.12.12

チームと団体でZOOMmtgを実施しました。そのなかで、成果物についてのチーム側の認識を団体に伝え、具体的なイメージをすり合わせ、意見/希望を伺いました。

2021.01.08

ボランティアの女性4名など団体関係者にZoomヒアリングを実施。また、地域ケアプラザのコーディネーターさんにボランティア募集のサポート等についてZoomヒアリングを行いました。

2021.01.23



中間提案を実施し、成果物となる説明会パワーポイント資料とボランティア募集チラシの内容や構成を確認しました。

2021.02.05

2月5日にチームミーティングを行いました。

2021.02.13



数々のヒアリングを経て、「ばあばの家」の由来や意義を整理し、ボランティア活動内容を具体的に表現した資料とチラシが出来上がり、2月13日（土）に成果提案MTGを行いました。早川さん、秋保さん（団体）をはじめ、生活支援コーディネーターの志田さん、信岡さん、社協の工藤さん、区役所の村上さんも参加され、「温かみがあってわかりやすい」「ものすごくすっきりしました」と大満足のご様子でした。引き続き、テキストの微調整を行い、2月20日に完成形を納品する予定です。

2021.02.20

最終納品を行いプロジェクト完了となりました。チームの皆さん、お疲れ様でした！

プロジェクト成果



たくさんの想いを整理して、伝えることばに。
ボランティアさん募集に向けた説明資料作成。

チームは、求められているボランティア像や役割を何度も団体と意見交換しながら理解を深め、募集チラシとスライド資料に使うことばや要素を整理していきました。

スライド資料では「ここに来れば誰かに会える。ここに来れば安心できる。」をキャッチフレーズに、代表の想いを簡潔にまとめ、意義や重要性は、地域包括ケアシステムやフレイル予防のイラストを利用して強調。一日の活動の流れを時間割にし、様々なかたちでボランティアに携われることも明記しました。初めての方の不安を取り除けるようQ&Aコーナーも設けました。募集チラシは、スライド資料の要素を抜粋して簡潔に加工しました。両方とも、写真やイラストを効果的に使い、わかりやすく親しみを感じてもらえるよう工夫しました。最終提案後にプレ説明会を実施するなど、アフターフォローも。「私たちと一緒に、心地いい居場所を作ってくれるボランティアさんを募集したい。その気持ちを丁寧にくみ取っていただきました」「いろんな面でアドバイスをいただき、とてもいい刺激になりました」「チラシの配布は4月から実施したい。この資料を活用して、しっかりと対応していきます」などの感想をいただきました。

プロジェクト成果の“その後”



作成いただいたボランティア募集チラシは、ケアプラザに設置して配布し、個別のポスティングも実施しています。ボランティア説明会資料は説明会で使っています。プロジェクト終了からのこの約半年の間に、既に説明会を2回実施しました。今後の説明会でも引き続き使用する予定です。

説明会に参加いただいた方から、3名が新規ボランティアとして参加くださいました。そのうち2名は運営委員となり引き続き活躍されています。ハマボノ開始時にボランティアも増やしたいが、運営委員を特に増やしたいと思っていたので、その目標も早々に達成でき、びっくりしています。

ハマボノでプロボノの皆さんと一緒に活動し、外部からの視点で意見をもらえたことが、とても良い刺激になりました。

[2021/9/25ばあばの家あさだ秋保様へのヒアリングより/ご協力：プロボノワーカー梶谷さん]

プロジェクト紹介

おでかけ3



西区

おでかけ3 実行委員会

プロジェクトの種類 ウェブサイト

プログラム

1DAYチャレンジ

進捗率 進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

西区第3地区の街づくりプロジェクトとしてスタートした移動支援バスサービスを、町会役員などから構成する運営委員会を中心に運営しています。使用するバスは地域の社会福祉法人のバスで、日中使用しない時間に「おでかけ3」のバスとして協力をいただいています。利用者が増えれば、便を増やすことも検討しています。

現在、利用者は主に今は口コミで主に高齢者の間で増え、リピーターが多い傾向ですが、新規の利用者や、小さなお子さんを持つ方・障がいのある方などにも活用を広げたり、協力者も増やしたいと考えています。

また、多くの地域で移動サービスを展開するにもバスの手配が難しいケースが多い中、「おでかけ3」は、地元の社会福祉法人が法人の地域貢献として協力している例として、広く関心を持たれている活動ですが、この活動を広く伝えるオンラインのツールが現在ありません。

紙媒体ですすでに多くの情報発信をしてきました。

そこでプロボプロジェクトでは、紙媒体として整った情報を整理、活用しながら、利用方法や活動内容、活動の価値を伝えるウェブサイトを作ります。



進捗状況

リーダー： 小川さん

メンバー： 石曾根さん 伊藤さん 中島さん

2020.10.24



ハマボノ1DAYチャレンジ2020、ハマボノ2020の、オリエーションを8チームで実施しました。自己紹介から始まり、地域包括ケアについての研修、プロジェクトのスケジュールや分担の確認を行い、約1か月後のハマボノ1DAYチャレンジ当日に向けて、プロジェクト準備がスタートしました。

2020.10.27



Skypeにてチームミーティングを実施、オリエーションに参加できなかったメンバーも含め全員で改めての自己紹介、今後の流れの確認などを行いました。

2020.11.07

支援先団体を訪問し、対面ミーティングを実施しました。チームからの質問にご回答いただくなど、ウェブ制作に向けた確認を行いました。

2020.11.18

チームミーティングを実施しました。また、ウェブ制作に必要なデータを支援先に依頼するなど、プロジェクト準備を進めています。

2020.11.28

プロボノワークを実施しました。

2020.11.28



ハマボノ1DAYチャレンジを実施しました。すでにオンラインでチームが作成していたウェブサイトを開いていただき、言葉、画像など、細かい点の確認をしました。また、修正作業をメンバーが進める一方で、同時進行で、今後団体が更新を行っていきけるよう、レクチャーも実施しました。

2020.11.28



ハマボノ1DAYチャレンジ当日のうちに、ウェブサイトの修正必要個所の確認をしていただき、ウェブサイト完成となりました！支援先団体の方からは、その場で修正をしながらウェブサイトを作っていき作業の流れをご覧になり「魔法のようだ」というコメントも。「こんな立派な中身を作ってもらったので、ぜひ多くの方に見てもらいたい」と言ってくれました。

<https://odekake3.jimdofree.com/>

2020.11.29



ハマボノ1DAYチャレンジ成果報告会に参加をし、プロジェクトの報告をしました。おでかけ3運営委員会会長も、初めてのZoomに挑戦くださり、感想を直接コメントくださいました。

皆さん、ご参加ありがとうございました！

プロジェクト成果



活動の魅力と利用者への思いやりあふれる 温かいウェブサイトが完成

プロボノチームは、事前に団体の活動エリアを实际歩き、坂の多さから移動支援バスの必要性を体験、支援先にヒアリングもし、活動への理解を深めました。そして、分担してウェブサイト制作を進めました。

当日は、実行委員会の皆さんなどにお集まりいただき、画像や表現など細かく確認し、更新方法を伝え、ルートマップを作ってくださいなどの作業もしました。ウェブデザインは、おでかけ3の温かい雰囲気が伝わるものに。乗り場の写真も掲載するなど、利用者に必要な情報をわかりやすく案内しました。「おでかけ3だより」は、最新号を大きく掲載、バックナンバーも閲覧できます。団体紹介には、「おでかけ3」がいかに地域に必要とされているかをぜひ載せたいというプロボノチームの提案で、団体立ち上げ経緯や、地域からの応援メッセージも掲載しました。

実行委員会会長の笠原さんからは、「魔法にかかったようだ。こんな立派な中身を作ってもらったので、ぜひ多くの方に見てもらいたい。」と、喜びの言葉をいただきました。

このウェブサイトは、実行委員会と地域の福祉作業所とが連携しながら継続的に更新し、活用いただいています。

(2021年3月6日時点の情報です)

[完成したウェブサイトはこちら \(外部サイトにリンク\)](#)

プロジェクト成果の“その後”



ホームページ完成後は、月に1度のおでかけ3実行委員会開催の様子を実行委員一人ずつからコメントを添えて公開しています。また、コロナの影響による運行休止や再開のお知らせも適宜更新します。「活動レポート」のページには、随時「おでかけ3だより」のPDFを掲載しています。

ホームページを見て「活動の理解が進んだ」という声や、他地域の方からは「自分たちにもこういうホームページがあつたらいい」という声もいただきました。ハマボノにお願いする前は「インターネットとはなんぞや?」という状態でしたが、情報発信について分かるようになりましたし、便利なものがあると感じるようになりました。

そして、有難いことにプロボノの方が1名、プロジェクト終了後に実行委員会に入ってください、ウェブ関連のアドバイスや実行委員会のオンライン開催など、活躍くださっています。

[2021/9/16 おでかけ3実行委員会へのヒアリングより]

プロジェクト紹介

リトルファームHOMMOKUもくり運営委員会



中区

リトルファームHOMMOKUもくり運営委員会

プロジェクトの種類 印刷物（チラシ作成）

プログラム

1DAYチャレンジ

進捗率

進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

築80年以上になる空き家を活用できないかとオーナーさんからご相談いただき、見学に行くと、通りから奥まった場所にあったのは隠れ家のような昭和初期の建物と畑。これを活用できたらおもしろいのではと、居場所作りの活動として「リトルファームHOMMOKUもくり」を2年前にスタートしました。現在は月火土の週3回、誰でも立ち寄れる居場所として開けています。活動内容としては、畑の作物や手作りのものを販売したり、蕎麦教室、料理教室、書道教室なども開催。各教室の先生は、趣味や特技を活かしてボランティアで活動をするシニアの皆さんです。

現在団体では、この場所をより多くの人に利用してほしいと考えています。そのためにも、ボランティアスタッフが集まれば、いま以上に多くの日数、居場所を開くことができます。また、居場所としての活用方法をもっと工夫したり、現在実施している蕎麦教室などのように、様々な分野の特技を持つ人に先生として来てもらう教室を増やしたいとも考えています。

そこで、プロボノプロジェクトでは、「リトルファームHOMMOKUもくり」を活用したり、活動を支える、ボランティア募集のためのチラシを作成します。



進捗状況

リーダー： 木城さん

メンバー： 石田さん、長田さん、山端さん

2012.01.01

インターネット調査を実施しました。

2020.10.24



ハマボノ1DAYチャレンジ2020、ハマボノ2020の、オリエーションを8チームで実施しました。自己紹介から始まり、地域包括ケアについての研修、プロジェクトのスケジュールや分担の確認を行い、約1か月後のハマボノ1DAYチャレンジ当日に向けて、プロジェクト準備がスタートしました。

2020.10.28

チームミーティングを実施しました。

2020.11.28

支援先からのフィードバックを反映させ、最終成果物を納品しました。

2020.11.28



1DAYチャレンジ本番を実施しました。本番でも現地でボランティアの方々にインタビューを追加し、代表との方針確認を行いました。

昼食後に、チームメンバーによるアイデアの洗いだしを行い、デザインを組み立てを実施。パワーポイントをこなすメンバーのてきぱきとした作業で、テンポ良く作製できました。

4時には支援先代表者からのチェックをもらい、修正もスムーズに完了。チラシの複合型用途をよく取り込んだ成果物となりました！

2020.11.29



ハマボノ1DAYチャレンジ全体の成果報告会を実施し、各チームのプロジェクトを発表し、これでプロジェクト終了となります。

チームの皆さん本当にお疲れ様でした！！

2020.11.29

成果物の納品を実施しました。

プロジェクト成果



多目的スペースの活性化と管理ボランティア募集、両方狙ったチラシを作成

1DAYチャレンジイベント当日は、三名のメンバーが現地に出向き、まずは改めて成果物の方向性の確認と、現在ボランティアをされている皆さんに対して、ヒアリングを実施しました。それらをもとに、チラシの対象となるボランティアは、単なる管理人ではなく、ご自身も何らかの活動でスペースを活用（教室の開催など）することができる“利用者兼管理人”というニュアンスで、募集チラシを制作することとなりました。

構成を決め、メンバーで作業分担しながら、手際よくアイデアをパワーポイントに打ち込みチラシを作成。働き方改革等のコンセプトもからませ、趣味や好きなことができ、その時間が管理人としてのボランティアにもつながるという内容にまとめ、「日頃の“やりたい”を叶える場所」という素敵なメッセージが伝わるチラシになりました。

団体の皆さんからは、「出来上がりは想像以上に斬新なものできた」「下見や当日はいろいろ人と話しが出来ておもしろかった」とのご感想を頂いています。コロナがもう少し落ち着いてからチラシを活用していく予定で、それに向けて現在は、利用者や管理人が使いやすいようにスペースを整理するなど、準備を進めています。

プロジェクト成果の“その後”



ハマボノ1DAYチャレンジで、初めてHOMMOKUもくりを訪問したハマボノチームの皆さんが、この場所を気に入って、活動について話を聞いて良さを伝えてくださったことで、それまで気づかなかった活動の魅力を自分たちでも認識できたのは、とてもありがたかったと思っています。



成果物のチラシを受け取った後、コロナ禍のためチラシを配って参加者に呼びかけるという活動がしばらくできずにいましたが、今年になりようやく元の活動に戻ってきました。さらに、以前からつながりのあった会員さんがボランティアスタッフとして参加してくれるようになったこともあり、また広報に力を入れていきたいと思っています。

ハマボノ1DAYチャレンジで作っていただいたチラシは時間が経ち更新が必要なため、アップデートして活用したいと思っています。また、イベントなどのチラシや、ウェブサイトも作って広報活動をしていきたいとも考えています。

[2024/2/20 HOMMOKUもくり運営委員会 代表今関様へのヒアリングより]

プロジェクト紹介

ホットカフェ小机



港北区

一般社団法人 ホットカフェ小机

プロジェクトの種類 ウェブサイト

プログラム

ハマボノ

進捗率 進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

ホットカフェ小机は、フリースクール楠の木学園卒業生の父母により、障がいや引きこもり等の生徒の学園卒業後の居場所及び職業訓練の場のカフェとして発足しました。現在は、地域住民の居場所として、高齢者向けのサロンやカフェの運営、貸しスペース等を行い、住民のつながりや助け合いの輪を広げています。

現在団体には、団体概要や取り組みについて説明するホームページや資料がなく、団体活動を伝えづらい状況です。カフェ運営や貸しスペースなど複数ある事業について、わかりやすくまとめ、何をしている団体を地域の人にわかりやすく伝えることで、より多くの方の興味を引き、利用者を増やしたいと考えています。

特に、子どもや小さなお子さんのいる保護者世代などもっと若い世代の利用も増やし、加えて、今後の担い手となるボランティアにも来てほしいという思いがあります。

そこで、今回のプロジェクトでは、ホットカフェ小机の利用者及びボランティアを増やすことを目的に、団体概要、成り立ち、ビジョン、活動内容、スケジュールなどをわかりやすく記載したホームページを作成します。また、あわせて、団体の方々が自分たちでホームページが更新できるよう、更新のための手順書を作成します。

進捗状況

プロジェクトマネージャー： 片桐さん

ウェブデザイナー： 柳内さん

マーケッター： 熊谷さん 品川さん 廣瀬さん 本間さん 長妻さん

2020.10.24



ハマボノ2020、ハマボノ1DAYチャレンジ2020の、オリエーションを8チームで実施しました。自己紹介から始まり、地域包括ケアについての研修、プロジェクトのスケジュールや分担の確認を行い、2週間後のキックオフミーティングに向けて、プロジェクト準備がスタートしました。

2020.11.07



ハマボノ全5チームが集合し、キックオフミーティングを実施、プロボノチームと支援先団体の皆さまとの顔合わせをし、プロジェクトがよいよ本格的にスタートしました。

2020.11.11

チームミーティングを実施し、ヒアリング予定の調整を始めました。

2020.11.21

活動現場を見学し、担当者の方や参加者の方へのヒアリングも実施しました。

2020.11.25

オンラインでチームミーティングを実施し、活動現場見学についての共有や、次のアクションの確認をしました。

2020.12.04

活動現場を見学し、活動内容などについての確認をしました。

2020.12.09

コンテンツ企画チームでミーティングを行いました。

2020.12.10

制作チームミーティングを行い、中間提案までのプロセスを確認しました。

2020.12.19



支援先団体とのミーティングを実施、中間提案に向けた確認事項のすり合わせをしました。

2021.01.16



中間提案ミーティングを実施しました。感染症予防のため、チームからは2名が団体を訪問、他のメンバーはオンラインで参加をしました。支援先団体の方には、ウェブサイト完成後に更新を担当くださる方にも同席いただきました。ミーティングでは、これまでチームが整えたコンセプト、構成、画面イメージをお伝えし、支援先団体の皆さんに提案内容への合意いただきました。写真などの素材を団体の方にいただきながら、これからいよいよ制作に入ります。

2021.01.21

制作チームでオンラインミーティングを実施し、制作本格スタートに向けて進め方の確認をしました。

2021.02.03

オンラインでのチームミーティングを実施し、ウェブサイト最終化に向けた詳細の確認をしました。

2021.02.13

2月27日に予定している成果提案に向けた、団体との打合せをしました。ほぼ完成しているウェブサイトを実際に触っていただき、ご意見や修正有無などの確認をしました。

2021.02.27



成果提案ミーティングを実施しました。新型コロナウイルス感染予防のため、チームからは2名のみが支援先団体を訪問、他のメンバーはオンラインでのミーティング実施となりました。（記念撮影時のみ、現地参加者もマスクをはずして集合しました。）

前半は、オンラインで、ウェブサイトの詳細のご説明、修正点などの確認をしました。後半は、現地で参加をしたメンバーが、更新マニュアルを支援先の皆さんにご覧いただき、実際に更新をしていただきました。

とても素敵なウェブサイトがほぼ完成となり、支援先の皆さんにもとても喜んでいただいています。今後、微修正を加え、最終納品予定です。

2021.03.05



成果物への修正の反映が完了し、最終納品をするための確認ミーティングをチームで実施しました。チームとしてのミーティングも今回が最後となります。最後に、プロジェクト参加についての感想も伝え合い、プロボノに参加をしてよかったというコメントを皆さんからいただきました。

最終成果物を団体にお送りし、ご確認いただいてプロジェクト完了となります。

2021.03.09

プロジェクト最終成果物受領の確認をしました。「本当に素敵なホームページをありがとうございます。他の団体さんにもハマボノをご紹介したいと思います。」というコメントをいただきました。

2021.03.19



プロジェクト完了後ですが、本日、メンバー1名が支援先を訪問し、マニュアルに沿って実際の更新の練習のサポートをしました。すでにお伝えしていたGoogleカレンダーによる予定のご案内、Instagramによる写真の更新に加え、本日、ウェブサイトテキストの更新もできるようになりました。ウェブの更新を団体の方が継続していける体制が確認できました。

プロジェクト成果



地域の皆さんが気軽に立ち寄ってみたいくなるような、明るくて柔らかい雰囲気ウェブサイトが完成しました

プロボノチームは、団体との顔合わせとなるキックオフミーティングで団体の活動状況やウェブサイトへの期待などを確認し、さらにヒアリングや活動見学を通してウェブサイトのコンセプトや構成を整えていきました。そして、地域の方々が気軽に立ち寄れるカフェであるということや、貸しスペースとしても活用できるなどを知ってもらい、「利用したい!」と思ってもらえるウェブサイトを目指しました。

出来上がったウェブサイトは、スペース内の様子や商品などの写真をたくさん活用した、親しみの持てる明るいページとなりました。

ウェブサイトにあまり慣れていない団体さんのために、更新がしやすいウェブサイトであることも大切です。そこで、イベントなどのご案内は、団体さんが使い慣れているGoogleカレンダーを使用、ランチ写真などをまめに更新するためには、Instagramを活用できる設定にし、継続利用の負荷を下げるように工夫し、更新方法を丁寧に説明、さらに更新マニュアルもあわせて納品しました。

団体の方にとても喜んでいただき、ウェブサイトに負けないスペースにしていきたい、という前向きなコメントをいただきました。

(2021年3月16日時点の情報です)

[完成したウェブサイトはこちら](#) (外部サイトにリンク)

プロジェクト成果の“その後”



プロジェクトで制作いただいたホームページに、GoogleカレンダーとInstagramを連動させてもらったことで、とても手軽に更新ができ助かっています。利用者の皆さんが、イベントなどの確認をオンラインでできるようになり、便利になりました。Instagramを利用して、教室案内、お弁当のメニューの画像も更新しています。ホームページやInstagramを見たという問い合わせや、区外からの利用者も増えました。掲載する写真を意識して、外観や店舗内のレイアウト、お弁当の見栄えなども考えるようになりました。新しい利用者を増やす、よい広報活動になっていると思っています。

ホームページを作ってお店の業績が上がったかどうかは、コロナの影響もあり確認できていませんが、業績にもつなげていきたいと思っています。

[2021/10/2 ホットカフェ小机 野澤様へのヒアリングより/ご協力：プロボノ
ワーカー長妻さん、品川さん、廣瀬さん、本間さん、熊谷さん]

プロジェクト紹介

笑顔



緑区

NPO法人 笑顔

プロジェクトの種類 活動運営マニュアル

プログラム

ハマボノ

進捗率 進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

2015年に設立し、子どもから高齢者までのあらゆる世代が笑顔で暮らせる地域コミュニティの再生を目指すNPO法人です。主な事業として、地域高齢者へ毎週テーマ別に介護予防・生活支援サービスの提供を行う笑顔サロンの開催や、まちづくり推進に関する事業、地域の安全・安心情報発信の事業等を実施しています。

現在は、コロナショック後の新しい生活様式に対応した高齢者支援の必要性から、新たな活動を目指しています。オンラインで認知予防のエクササイズなどを行う、介護予防をリモートで行う自立支援プログラムの立ち上げです。しかしながら、主な運営は代表ご夫婦のお二人のみで行っている為、日常の業務で忙しく、マンパワーが不足しています。

そこで、プロボノプロジェクトでは、介護予防リモートプログラム実現の為に、モニター実施を通して高齢者のフィードバックを得ながら、オンラインツールに不慣れな高齢者でもリモートでプログラムに参加できるようなわかりやすいマニュアル作成を行います。



進捗状況

プロジェクトマネージャー： 遠藤さん

マーケッター： 青木さん 大井さん 小林（カ）さん 小林（ヒ）さん 中沢さん 松尾さん

2020.10.24



ハマボノ2020、ハマボノ1DAYチャレンジ2020の、オリエーションを8チームで実施しました。自己紹介から始まり、地域包括ケアについての研修、プロジェクトのスケジュールや分担の確認を行い、2週間後のキックオフミーティングに向けて、プロジェクト準備がスタートしました。

2020.11.03

キックオフの準備のために、チーム内ミーティングを行いました。

2020.11.07



ハマボノ全5チームが集合し、キックオフミーティングを実施、プロボノチームと支援先団体の皆さまとの顔合わせをし、プロジェクトがよいよ本格的にスタートしました。



2020.11.17

個別ヒアリング向けのアンケート項目や集計方式をまとめました。
これから団体の利用者や、リモートプログラムとしてマニュアル作成を行うコグニサイズの先生へのヒアリングがスタートします。
団体の方からは、高齢者へのヒアリングについてのコツや留意事項も頂きました。

2020.11.19

団体利用者へのヒアリングを行い、現在のサービスやオンライン活用に関するご意見や現状を確認しました。

2020.11.25

コグニサイズをご担当されている先生へのヒアリングを実施しました。認知症予防のため、コグニサイズを広げる取り組みを精力的に行われていることがとても伝わってくるヒアリングでした。

2020.11.26

団体利用者ヒアリング2回目を行い、前回とは別の利用者からの意見を聞き取りました。

2020.11.27

団体利用者ヒアリング3回目を行い、前回とは別の利用者からの意見を聞き取りました。利用者の方々の、ご高齢ながら大変元気な様子にはチームも驚きです！

2020.11.28



コグニサイズの体験会へチームで参加しました。その後チームミーティングを実施しました。

2020.12.02

高齢者向けにZoom講座を行っている別の団体に対して、団体のマニュアルの使い勝手や高齢者向けオンライン講座実施について、ヒアリングを行いました。

2020.12.06



チームミーティングを行い、収集した情報のまとめと分析を実施しました。

2020.12.17



中間提案ミーティングを実施しました。ヒアリング調査の結果や、マニュアルの素案を提案しました。

2020.12.22

提案に対する回答と承認を実施しました。

2020.12.30

提案に対するフィードバックをもとにマニュアルに盛り込む内容のブレインストーミングを行いました。

2021.01.04

マニュアルのブラッシュアップとして、「楽しく操作を覚えるための仕掛けづくりについて」と「高齢者のオンラインに対する抵抗感を減らし、操作を覚えてみようとする意欲を引き出す工夫について」をテーマにチームミーティングを行いました。

2021.01.16

一通り完成させたマニュアルを使ったモニター会（リモート認知症カフェ）を実施しました。実際の使用感についてのフィードバックを得ることができました。



2021.01.23

オンラインコグニサイズ試験配信の段取りを確認するため、活動現場訪問をしました。

2021.02.06



団体の利用者の高齢者の方々へLINEの使い方講座を開きました。ビデオ電話に慣れることにより、オンラインコグニサイズへの抵抗感をなくしてもらう目的です。ビデオ通話に馴染んで頂けました。

2021.02.17

完成させたマニュアルを団体へ提案しました。わかりやすいマニュアルとなったものの、モニター会やLINE講習会の実施を通して、デジタル端末やオンラインコミュニケーションに不慣れな高齢者の方々へ、Zoomを利用したオンラインコグニサイズに参加してもらうには、もっと多くの練習の機会の創出や、デジタル端末に慣れ、興味を持ってもらう必要性が見えてきました。

それに対して、チームの現場から見てきた具体的なアイデア共有や団体とのディスカッションが行われました。2月27日には、団体の方主催で、マニュアルを利用したオンラインコグニサイズを実施予定です。

2021.02.27



2月17日のミーティングから見てきた改善点を反映させたマニュアルを利用して、団体の方主催のオンラインコグニサイズを実施しました。実験的にFacebookでも配信を行うなど、新しい取り組みも積極的に行いました。

コグニサイズの先生はリモートで参加し、団体利用者は会場のモニター前から参加、一部の方はiPadの貸し出しを利用して、iPadからの接続に挑戦。まだまだ慣れない部分も多いですが、皆で楽しく新しいことに挑戦されている姿が印象的でした。今後団体が運営していく上での運営上の改善点も見えてきました。

2021.03.04



りました。

今までのモニター会、LINE講習会、検証会などを通じた現場の観察から見てきた、笑顔サロンにおけるオンライン化推進計画をまとめ団体へ提案しました。高齢者にデジタル端末に慣れてもらう機会を増やすためのアイデアや、スタッフの方々に対する研修、補助金活用や、格安スマホの導入など、現場の状況に沿った内容を具体的に提案、そこを起点に団体からもこれから実施したい案が出てくるなど、有意義な会となりました。

プロジェクト成果



マニュアルの検証を重ね、笑顔サロン利用者にICT活用を広げるための計画を提案！ マニュアル作成に留まらない、団体の次の一歩も策定。

マニュアルモニター会の結果から、iPadの立ち上げからコグニサイズ終了までのマニュアルでは、高齢者の方にはステップが多く、ハードルが高いということがわかった為、さらにステップを簡略化。Zoomの立ち上げまでは、ご家族に手伝ってもらうことを前提に、Zoom利用中の基本的な操作のみを高齢者向けにまとめました。(iPad立ち上げからのフルバージョンのマニュアルは、ご家族の方に笑顔サロンの活動を理解し、ご協力頂くことを目的に利用)。色々な検証から見てきた、笑顔サロンでのICT活用推進に向けた現状と目標、それにに向けた具体的なステップをまとめ、団体へ提案しました。

団体代表の高鹿ご夫妻からは、プロジェクトを通して、オンラインコグニサイズ推進するために取り組むべきことがわかった。まずはZoomに限らずスマホやiPadに触れる機会をつくる場を、早速、現在のプログラムにも取り込んでいきたい、とのご感想を頂きました。

プロジェクト成果の“その後”



成果物のマニュアルを活用し、2021年4以降のコグニサイズイベントのZoom体験参加やリモート配信を試行中です。

また、この度、47コロナ基金の助成金で孤独孤立化する高齢者の方の対策として、2022年3月末までの期間限定の「笑顔サロン2」を開催することになっていましたが、オミクロン株のまん延防止措置により多くの人が集まれなくなったため、コグニサイズの先生とサロンド鹿鳴館と当日サロンド鹿鳴館に来られない方との三者をネットで結んだZoomコグニサイズを実施しました。ここでも、マニュアルが大変役立ちました。

参加者がITに慣れてきて、先生が会場に来ることが出来ない時でもYouTubeのコグニサイズ動画を流すだけで臨場感を持って取り組めるようになりました。一方、やはり80代の高齢者の方にマニュアルだけでZoom参加をお願いするのはかなり厳しいものがあることも分かりました。今後は、高齢者の「かんたん楽しいスマホ（iPad等を含む）教室」を大学生グループと連携して開催する予定です。

コロナの状況次第でまた集合しての会場開催が出来るようになると思いますが、体調が万全でない時にリモートでも参加できるような仕組みも引き続き作っていくつもりです。

[2022/3/11 NPO法人笑顔 高鹿様へのヒアリングより]

プロジェクト紹介

いこいの家 夢みん



戸塚区

NPO法人 いこいの家夢みん

プロジェクトの種類 印刷物（パンフレット作成）

プログラム

ハマボノ

進捗率 進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

戸塚区の大規模マンション「ドリームハイツ」内で1996年4月に始まり、高齢者向けの支援、住民同士のボランティア活動推進等を行ってきました。5年ほど前に、路面の1階のスペースに移転し、多世代交流の場としても発展させるため、多世代向けの居場所提供や貸しスペースとしての活動もスタートしました。昨年度はトライアルで、シニアが若いママに編み物を教える編み物教室を開催しました。

主な事業は、多世代交流サロンの運営（コミュニティカフェ夢みん）（介護予防事業、子ども将棋、場所貸しなど）と、住民同士の助け合い活動（ボランティアバンク・えん）（見守り隊・助け隊、日常生活支援、緊急時駆け付けなど）です。

現在団体が抱えている主な課題は、多世代が利用できるサロンとして運営をしているにも関わらず、高齢者向けのイメージが定着している為、若い世代の利用者が増えないということです。

また、貸しスペース事業についてうまく周知できれおらず、貸しスペースとしての利用が思うように増えていません。特に若い世代も含め、多世代の人に、自主的に好きなイベント等を開いたり、おしゃべりスペースとしてもっと活用してほしいと思っています。

プロボプロジェクトでは、若い世代の利用者を増やし、多世代交流の場としてさらに発展することを主な目的とし、幅広い世代が利用できるということや、夢みんのビジョンや取り組み、様々な事業内容や提供サービス、活用方法をわかりやすく記載したパンフレットを作成します。現在使用しているパンフレットにはほぼ活動は網羅されていますが、高齢者用の拠点というイメージが強いため、多世代を対象とした情報となるよう、既存のパンフレットやチラシなども参考に情報を整理し、作成します。



進捗状況

リーダー：石井さん

メンバー：根本さん 本田さん 本間さん

2020.10.24



ハマボノ1DAYチャレンジ2020、ハマボノ2020の、オリエーションを8チームで実施しました。自己紹介から始まり、地域包括ケアについての研修、プロジェクトのスケジュールや分担の確認を行い、約1か月後のハマボノ1DAYチャレンジ当日に向けて、プロジェクト準備がスタートしました。

2020.10.30

チームは現在、支援先が希望しているA3パンフレットの参考となるパンフレットサンプルを探しや、昨年のハマボノ（ママボノ）チームが行った支援先のニーズ調査の結果を参考にしながら、役立つパンフレット作成に向けてアイデアを練っています。

2020.11.01

本番前に確認しておきたい質問事項をまとめ、支援先へご案内しました。

2020.11.04

支援先から質問への回答があり、プロジェクトに対するニーズや課題の擦り合わせをすることができました。

2020.11.28



1DAYチャレンジ本番を実施しました。朝から団体活動場所に集合し、午前中は、成果物への期待やニーズの確認、そして、それをもとにしたパンフレットで伝えたいメッセージやメッセージ・構成を作り団体と共有。午後からは制作過程をスタート！支援先の大切にしたい思いや記載内容を、非常に丁寧に聞き取りながら、チームからのアイデアや提案を交えて、プロボノチームと支援先で一緒に作りあげました！！時間内で提案できたものに、もう少し修正を加えたものを、後日支援先に改めてご提案予定です。

2020.11.29



1DAYチャレンジプロジェクト全体での成果報告会を実施しました。各チームのプロジェクト内容の発表と支援先・支援先推薦者の方々からの感想を頂きました。成果報告会后、夢みんチームは、皆で意見を出し合い、最後の仕上げを行いました。

2020.11.30

チームでブラッシュアップした成果物を支援先へ改めて提案しました。

2020.12.07

支援先よりフィードバックを頂き、最終納品が完了しました。これでプロジェクトは終了となります！パンフレットが団地の全戸へ配布されるのがとても楽しみです！チームの皆さん本当にありがとうございました！

プロジェクト成果



幅広い世代から利用されるサロンへ～夢みんらしさを大切に
したパンフレットリニューアル～

事前準備で用意した参考パンフレットや台割を持って、当日朝に夢みんの活動場所へ集合。最初に今回作成するパンフレットの方向性の確認を行い、夢みんの皆さんの期待や要望をヒアリングしました。既存の利用者も意識して、「夢みんらしさ」を残しつつ、若い世代に向けたメッセージは何か、なぜ高齢者向けと思われるのか、という点をポイントに、子育て世代も利用可能だと直感的に伝わるよう表紙に子どもの写真を使用したり、多世代の方に向けたスペースの活用例を記載するなど、記載順序や内容にこだわったパンフレットになりました。

夢みんの皆さんからは、「私たちの要望に、とても丁寧に真摯に対応していただき感謝しています」という感謝の言葉や、「内部だけで当たり前と思っていたことが、外部の風が入ることにより、新しい発見や気づきがあり、改めて日々の活動を振り返ることができました」とご感想を頂きました。新年度に向けて3月末に団地への全戸配布を予定しています。住民の方々からの反応が楽しみです！

プロジェクト成果の“その後”



プロボノでレイアウトを作ったパンフレットは3,000部印刷し、2021年3月末にドリームハイツ（全2,500戸）内で配布しました。残りはケアプラザに配置したり、直接訪問された方へ手渡しをしています。

納品時はA3サイズの3つ折りでしたが、実物を色々な人に見てもらった中で「大きくて返って読みづらい」という意見があり、印刷時にはB4サイズ3つ折りのパンフレットにしました。

主に配布をしたドリームハイツの55%が高齢者であり、またパンフレットで訴求したイベントの大部分がコロナ禍で開催できなかったため、狙いとしていた「若い世代への利用波及」を実感するには残念ながら至っていません。しかし、今後イベントが開催できるようになり、パンフレットの効果を感じられるようになればと思っています。

[2021/9/25 いこいの家夢みん代表 伊藤様ヒアリングより/ご協力：プロボノワーカー本間さん、根本さん、石井さん]

プロジェクト紹介

せや



瀬谷区

NPO法人せや

プロジェクトの種類 マーケティング基礎調査

プログラム

ハマボノ

進捗率 進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

NPO法人せやは、移送サービス、高齢者相談所、ミニデイサロン、コミュニティカフェ運営など様々な活動を行っています。その中で、高齢者支援拠点である「あって～南瀬谷」では、折り紙、映画、昼食会などの催し物を開催することで、地域の高齢者が気軽に何でも相談できる工夫をしてきました。最近では、オンラインによる集いの場の開催を企画しています。

現在団体が抱えている課題は、「あって～南瀬谷」の利用者はまだ少なく、認知度も低いということです。地域には高齢者が増えているにも関わらず、新規の参加者が思うように増えていません。もっと多くの人に「あって～南瀬谷」を知ってもらい活用してほしいと思っています。

また、そのためにも、「あって～南瀬谷」のスペースを活用した、新しい活動のアイデアがさらに必要とも感じています。

プロボノプロジェクトでは地域へのアンケートやヒアリングを通し、「あって～南瀬谷」の認知度、居場所としての住民のニーズなどを掘り起こす客観的な調査をすることで、調査結果をもとに、新規利用者を増やすための施策や、「あって～南瀬谷」活用の提案をします。



進捗状況

プロジェクトマネージャー：竹田さん

マーケッター：越智さん 梶原さん 佐藤さん 高杉さん 高瀬さん、井上さん

2020.10.24



ハマボノ2020、ハマボノ1DAYチャレンジ2020の、オリエーションを8チームで実施しました。自己紹介から始まり、地域包括ケアについての研修、プロジェクトのスケジュールや分担の確認を行い、2週間後のキックオフミーティングに向けて、プロジェクト準備がスタートしました。

2020.11.04

キックオフに向けて、チームミーティングを行いました。

2020.11.07



ハマボノ全5チームが集合し、キックオフミーティングを実施、プロボノチームと支援先団体の皆さまとの顔合わせをし、プロジェクトがいよいよ本格的にスタートしました。

2020.11.15

チームミーティングを行い、今後のヒアリングの日程調整や作業分担の整理をしました。

2020.12.05

ヒアリング実施に向けてチームミーティングを行いました。

2020.12.06

個別ヒアリングを実施しました。

2020.12.29

チームミーティングを行い、中間提案に向けてのレポート作成と成果物の方向性についてすり合わせを行いました。

2021.01.09

中間提案ミーティングをオンラインで実施し、調査報告と、調査をもとにした提案の方向性をご提示しました。

2021.01.24

チームリーダー、コーディネーター、事務局三者で中間報告の認識の再確認オンラインミーティングを行った。その結果、調査結果から見えてきた課題に関するご提案を、できるだけすぐに活用できるツールとしてご提示する方向となりました。

2021.02.24

最終成果物を完成しコーディネーターの方へ事前にご案内、内容をご確認頂きました。これをもとに3月6日の最終提案ミーティングにて団体の皆さんへご提案予定です。

2021.03.06

オンラインと現地訪問グループに分かれて、成果提案ミーティングを実施しました。今までの調査のまとめと、それを踏まえたイベント企画案を提案。チームでの振り返り会を3/13日に実施予定ですが、一旦プロジェクトはこれで完了となります。チームの皆さん4か月間ありがとうございました&お疲れ様でした！！

プロジェクト成果



調査から見えてきた「広告」と「集客のイベント」の必要性、それに向けた具体案を提示しました。

現場ヒアリングから、「相談を持ち掛けるには心理的なハードルが高い」「外から分かりにくく心理的に入りにくさがある」「広報の力が弱い」などの現状を把握。これらを整理して「あつて～南瀬谷」の相談窓口には、「多くの方と接点を増やすこと」と「人間関係を深めていく機会や働きかけ」が必要であると考えました。

多くの人と接点を増やす為には「広告」と「集客のイベント」が重要と考え、「広告」については「ちらし活用ノウハウ」、「集客イベント」については「イベントレシピ」を提供しました。

「ちらし活用ノウハウ」は、ちらしの役割、ちらしのターゲットの選定について、など、ちらし作りのポイントや、具体的なちらし例をまとめたもので、今後団体がイベント等を実施する際に参考となるものです。

「イベントレシピ」は、イベントの企画案で、茶話会系、交流会系、趣味系、娯楽系など、分野別に概略、準備、当日の段取り等をレシピ本にし、計19種類のイベントを提案しました。

これらの具体的で実際役立つ成果物の提供を団体の皆さんも大変喜んでくださいました。プロボノチームも成果物が活用されることを楽しみにしています。

プロジェクト紹介

わか



瀬谷区

見守り配食グループ わか

プロジェクトの種類 活動運営マニュアル

プログラム

ハマボノ

進捗率 進捗率 100 %

進捗状況

プロジェクト成果

その後の変化

地域の75歳以上で独居の方に週1回手造りのお弁当を配る、見守りも兼ねた配食活動を行う配食ボランティア団体です。23年間続いた配食グループが昨年継者不足で解散をしましたが、お弁当も有難いが、それ以上に、会いに来てほしいという見守りの観点での地域からの声が多く聞かれました。そこで、新たな団体として令和2年4月に設立、コロナで開始延期になっていた配食活動を令和2年10月からスタートします。団体としては新規ですが、前団体から継続するボランティアが3名、その他、新規のボランティアがすでに50名程集まっており、調理、配送（中継地点まで車で運搬）、個人宅配達へお届け（中継地点から各家庭へ配達）の3つの分担で活動します。

「配食グループ」である以上配食お弁当作りと高齢者見守りがメインですが、関わる人が増えていくと、新しいボランティアの方に活動の流れを伝える負荷が発生したり、理念が伝わりにくくなるのが懸念されます。

そこで、プロボプロジェクトでは、この活動を波に乗せ、分担の流れや、ただの配食宅配弁当ではなく地域の高齢者を見守る活動でもあるこの活動との理念や意義を理解しながら参加ができるよう、また、今後新たにボランティアを希望する人が来た時に活動の流れや理念を伝えられるよう、配食ボランティアメンバーの活動運営マニュアルを作成します。



進捗状況

プロジェクトマネージャー： 眞塩さん

マーケッター： 青木さん 伊藤さん 金子さん 西谷さん 古川さん

2020.10.24



ハマボノ2020、ハマボノ1DAYチャレンジ2020の、オリエンテーションを8チームで実施しました。自己紹介から始まり、地域包括ケアについての研修、プロジェクトのスケジュールや分担の確認を行い、2週間後のキックオフミーティングに向けて、プロジェクト準備がスタートしました。

2020.11.07



ハマボノ全5チームが集合し、キックオフミーティングを実施、プロボノチームと支援先団体の皆さまとの顔合わせをし、プロジェクトがよいよ本格的にスタートしました。

2020.11.12

オンラインでのチームミーティングを実施しました。

2020.11.14



支援先団体を訪問し、実際の調理スペースなども見学、ボランティアの皆さんへのヒアリングを実施しました。

2020.11.19

オンラインでのチームミーティングを実施しました。

2020.11.23

ボランティアの方へのヒアリングを実施しました。

2020.11.29

オンラインでチームミーティングを実施しました。

2020.12.06

オンラインでチームミーティングを実施、中間提案に向けた資料の検討をしました。

2020.12.13

オンラインでチームミーティングを実施し、中間提案に向けた最終確認をしました。

2020.12.19



中間提案ミーティングを実施し、ヒアリング調査の報告、成果物となるマニュアルの構成などについて確認をしました。

2020.12.27

オンラインでチームミーティングを実施しました。

2021.01.09

オンラインでチームミーティングを実施し、成果物であるマニュアルの制作について確認をしました。

2021.01.16

支援先とオンラインでミーティングをし、作成を進めるマニュアルについて詳細確認をするヒアリングを実施しました。

2021.01.24

オンラインでチームミーティングを実施しました。

2021.01.27

成果物の最終化に向けて、ほぼ完成に近づいたマニュアルを支援先団体にお送りし、確認をお願いしました。

2021.01.30

支援先団体より、マニュアルへのフィードバックをいただきました。

2021.01.31

オンラインでチームミーティングを実施しました。

2021.02.07

オンラインでチームミーティングを実施しました。

2021.02.14



成果提案ミーティングを実施しました。丁寧にヒアリングを重ねて完成したマニュアルについてご説明をし、修正点の確認をしました。活動内容について、初めての方はもちろん、団体内部でも改めて確認ができる1冊となったと、大変喜んでいただけました。微修正をし、後日納品予定です。

2021.02.25

提案に対する回答と承認を実施しました。

プロジェクト成果



見やすい構成でポイントを絞ったマニュアルは、個々のステップだけでなく、活動全体を見渡せる資料に

見守り配食サービスわかっかは、地域の配食サービスを、「調理班」「配送班」「お届け班」と役割分担して活動をしています。配食と地域の見守りを兼ねていることが活動の特徴の1つです。このプロジェクトでは、各役割だけでなく、活動への思いや理念も伝えるマニュアルを目指しました。

完成したマニュアルは、わかりやすい構成で、各ステップについてポイントを絞った言葉で記載。欲しい情報が探しやすく、活動意義も伝わる、これからボランティアをしたい人にも伝わりやすい内容となりました。

わかっかのスタッフの皆さんは、プロボノを地域ケアプラザの方から勧められ、最初は全くイメージがつかないまま参加されたそうです。それでも、ヒアリングを受けて改めて認識したことや確認できたことがあったなど、収穫も多かったようです。また、マニュアルができたことで、改めて全体像が見えるようになったという声もいただきました。

代表の方からは、「この活動を知らなかった皆さんが、ここまで情報を私たちから引き出して整理してくださって感動しました。プロボノに挑戦して本当によかったと思います。」とご感想をいただきました。

(2021年3月10日時点の情報です)

プロジェクト成果の“その後”



作成いただいた運営マニュアルは、早速、冊子形式で約1,000部印刷し、ボランティア希望者、連合町内会、単位町内会などに配布しました。また、お弁当配達拠点への協力依頼などでもこのマニュアルを添えると、団体の活動内容を理解してもらいやすいです。プロジェクトで作ってくださったショートムービーは、今は大勢で集まって見る機会がありませんが、メンバー内で上映・共有しています。

ボランティアの人数は、2月は50人くらいでしたが今は72人と、着実に増えています。新規ボランティアへの説明では、各班のリーダーがこのマニュアルを使って行っています。基本的にボランティアの希望は口コミによるものが多いのですが、町内会に配付したマニュアルをきっかけに活動を知った人もいたようです。ハマポノに参加して本当に良かったと思います。

[2021/9/23 見守り配食グループわか 桐生様へのヒアリングより／ご協力：プロボノワーカー眞塩さん、西谷さん、古川さん]